

新春能

神歌

藤井徳三

鶴亀

上田大介

時代じだいの人々に愛好され、六百有余年の時を
超えて現代に受け継がれてきた能楽。
寿ぐ新春の祈りをこめて。

靉猿

善竹忠亮

2017
1/8(日)午後1時始

湊川神社神能殿

神戸市中央区多聞通3-1-1

全席自由席

前売：一般 4,500円 学生 2,500円

当日：一般 5,000円 学生 3,000円

主催 公益社団法人 能楽協会 (神戸支部)

お問合せ先 公益社団法人 能楽協会 (神戸支部) 西宮市相生町10-11 瓦照苑内

TEL:0798-70-9120 FAX:0798-73-8857 MAIL:kobe-sibu@nohaku.or.jp

新春能

平成二十九年一月八日(日) 午後一時始

於 湊川神社神能殿

神歌

藤井 徳三

藤井 文雄

地謡

笠田 祐樹
上田 拓司
笠田 稔
上田 宜照

番組

鶴亀

鶴 吉井 辰朝
亀 吉井 紹智
皇帝 上田 大介

従臣 松本 義昭

大臣 江崎正左衛門
従臣 是川 正彦

官人 牟田 素之

大鼓 大村 滋二
小鼓 高橋奈王子
太鼓 梶谷 義男
笛 八木原周平

後見 吉井 基晴
田中 章文
地謡 上田 顕崇
池内 頼子
森 壽子
藤井 文雄
上田 拓司
久保信一朗
上田 貴弘
笠田 昭雄
笠田 祐樹

台後見

上田 宜照
笠田 祐樹

休憩

鞆猿

大名 善竹 忠亮
猿曳 善竹 忠重
太郎冠者 岡村 和彦
小猿 前川 加奈恵

後見

前川 吉也
牟田 素之

助吟

阿草 一徳
尾鍋 智史
稲田 裕
小林 維毅

神歌(かみうた)

神歌は「翁」の謡部分「素謡」を演じるときに使われる名称です。

「翁は能の曲種の分類として、どのカテゴリーにも属さず、物語のストーリーめいたものはありません。神聖な儀式であり神事です。シテ「翁」は神となって天下泰平、国土安穩、五穀豊穡を祈禱します。古くから伝わる曲で、その源流は謎に包まれています。

世阿弥の著書「風姿花伝」には、猿楽の祖とされる秦河勝の子孫で秦氏安が、村上天皇の時代へ一〇世紀頃へ河勝伝来の猿楽を六十六番舞って寿福を祈願したが、そこから三番を選んで式三番「翁」の別称としたという内容を記しています。

鶴亀(つるかめ)

いにしえの中国。新年を迎えた皇帝の宮殿でお正月の行事が執り行われます。皇帝に仕える官人が登場し皇帝が月宮殿にお越しになるので、殿上人は皆参上するように、と触れ回ります。皇帝が不老門に現れて初春の日の輝きをご覧になると、万民が天に響く祝賀の声を上げます。宮殿の庭は金銀珠玉に満ちて美しいことこの上ない様子。こうしたなか、大臣が進み出て例年のように鶴亀に舞をさせ

その後、月宮殿で舞楽をなさいませ、と皇帝に奏上します。鶴と亀が舞って皇帝の長寿を祝うと、皇帝も喜び、みずから立って舞います。さらに殿上人たちが舞って祝賀の場を盛り上げた後、皇帝は御輿に乗って長生殿へ還ります。

鞆猿(うつぼざる)

遠国(おんこく)の大名は長い都暮らしの気晴らしに太郎冠者と狩りに出かけ、猿曳(猿回し)に出会います。毛並みの良い猿を見て大名は鞆(矢を入れる筒)を猿皮で飾ろうと思いつき、猿を貸せと言います。それでは猿が死んでしまおうと猿曳が断ると、大名が弓矢で脅すので、猿曳はやむなく自分で殺すことにします。猿に言い含め、杖を振り上げると、猿はその杖を取って舟をこぐ物真似の芸を始めます。そのいじらしさに猿曳は泣き出し、大名ももらい泣きし、猿の命を助けることにします。喜んだ猿曳が礼を言い、めでたい猿歌をうたって猿を舞わせます。その面白さに大名も上機嫌になり、扇や太刀、着ているものまで与え、自ら猿の真似をしてはしゃぎます。

新春能 2019年 1月 8日(日)

午後1時開演 [開場正午]

湊川神社神能殿

神戸市中央区多聞通3丁目1-1
電話 (078) 371-1358

全席自由席 前売：一般 4,500円 学生 2,500円
当日：一般 5,000円 学生 3,000円

主催 公益社団法人 能楽協会 (神戸支部)

お問合せ先 公益社団法人 能楽協会 (神戸支部)

TEL:0798-70-9120 FAX:0798-73-8857
Mail:kobe-sibu@nohgaku.or.jp



JR 神戸駅北へ3分
阪神・阪急・山陽「高速神戸駅」下車すぐ